

優秀賞

一般建築物の部

地域に開かれた複合的學校建築としてのチャレンジ

流山市立おおたかの森小・中学校

流山市おおたかの森センター

流山市立おおたかの森こども図書館

建築主：流山市

設計：株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ

施工：株式会社大林組

所在地：流山市市野谷6 2 1 - 1



図書館正面 地域住民が利用可能な「こども図書館」と学校の図書館が並び

(撮影/吉田 誠)

本作品は市立の小中学校と、地域交流センター、こども図書館、そして学童保育所が統合的に計画された、約22,000㎡におよぶ複合施設である。交通インフラの整備に伴い人口が増加している地域の特殊事情と、集約的な公共施設整備が時代のニーズとしての背景である。その事業化にあたってプロポーザルで選定された設計者は、県内で先駆けとなった「オープンスクール」のパイオニアだが、この規模のものは初めてである。

しかも、市街地と「おおたかの森」に挟まれた3mの高低差のある立地条件にあって、新たな解法の発見が求められた。ここに見られる道路側3階建て、グランド側2階建てとし、その中央を開放的な大階段の「風の道」が貫き、森と街を象徴的に繋ぐという構成がその答えであった。しかも、建物はそれぞれ中庭的空間を内包し、様々な中間領域とともに、豊かな内外空間を作り出している。多用された大型のアルミ製折り戸は、おおらかな開

放的室内空間を動線に沿って至るところに作り出している。

さらに、計画・設計上特筆すべきは、これほど大規模で複雑な構成の学校建築を、極端に言えば「フラットスラブ」と「L字壁」という2つの要素に還元し、そのフレキシビリティの上で自由自在に必要な要求に込んでいることである。小学校はオープンスクール、中学校は大型建具によって閉じられる教室とオープンスペースとの複合という異なるシステムにも巧みに対応できるシステムとして設計されている。丸いコーナーはその反復に柔らかな表情を与え、室内空間に統一感と多様性を両立させている。

(岩村 和夫)



2層吹抜けのワークスペース
上下階の視線をつなぐ

(撮影/吉田 誠)



第一体育館より森のにわを見る
折戸を間口いっぱい開けることで風が抜ける

(撮影/吉田 誠)